トラック輸送状況の実態調査(全体版)　結果概要

■調査概要　・有効回答数　運送事業者 1,252 社　・ドライバー5,029 名（うち女性 62 名）
・調査期間　平成 27 年 9 月 14 日（月）～20 日（日）の 7 日間

１．回答ドライバーの概要【３ページ】

(1)車種は大型が 57.7%。
(2)年齢は 30～59 歳が中心で、総務省「労働力調査」の道路貨物運送業の雇用者数の年齢分布と同傾向。
(3)１運行の走行距離は短・中距離運行（走行距離 500㎞ 以下）が 85.1%を占め、平均は 297 ㎞。

２．回答事業者の概要【３ページ】

(4)保有台数 21～50 台が最多。次いで 51～100 台で、平均は 57.8 台。

３．ドライバー拘束時間の概要【４ページ】

(5)「手待ち時間がある運行」は全体の 46.0%。
(6)手待ち時間の平均は 1 時間 45 分で、その分「手待ち時間がない運行」と比べて拘束時間が長くなっている（1 時間 53 分）。
(7)短・中距離運行の平均拘束時間が 11 時間台であるのに対し、長距離運行の平均拘束時間は 16 時間を超えている。
(8)輸送品類別では「農水産品」や「特殊品」、地域別では「九州」で長くなっている。
(9)手待ち時間は、「関東」、「近畿」、「中部」で長くなっている。

４．ドライバーの拘束時間等の分析

①【５ページ】
(10)１運行の拘束時間が 13 時間を超える運行が全体の 36.6%、16 時間を超える運行が全体の 13.0%ある。
(11)16 時間超の割合は、「大型」、「長距離」、「農水産品」、「九州」で高くなっている。
(12)休息期間８時間未満の運行が全体で 15.8%あり、「大型」の割合が高くなっている。
(13)調査日 7 日間のうち「休日がなかった」ドライバーが、全体の 9.8%あり、「大型」の割合が高くなっている。
(14)連続運転時間 4 時間超の運行が全体で 10.7%あり、「大型」、「長距離」、「農水産品」、「九州」の割合が高くなっている。

②【６ページ】
(15)拘束時間は、高速道路利用割合が高い運行の方が短い。
(16)手待ち時間がある運行での手待ち時間は、１運行あたり平均１時間 45 分で、うち１時間超が 55.1%、２時間超が 28.7%、３時間超が 15.1%。
(17)手待ち１回あたりの待ち時間は、平均１時間 09 分、１時間超が 35.0%、２時間超が 13.8%、３時間超が 6.2%。
(18)手待ち時間は発・着荷主において、頻度、時間（１時間強）とも同程度発生している。
(19)時間指定がある場合でも、ない場合と同程度の手待ち時間が発生している。

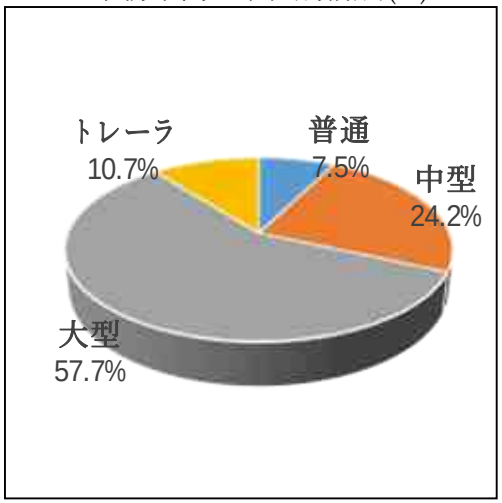
５．荷役の書面化、荷役料金収受の状況【７ページ】
(20)荷役に関して書面化しているものが 58.2%ある一方、事前連絡がなく現場で荷役を依頼されたものが 9.5%。
(21)荷役料金を収受ができているのは、書面化しているもので 71.2%、事前に口頭で依頼されたもので 54.0%。
(22)事前連絡がなく現場で荷役を依頼されたものは、80.5%が荷役料金を収受できていない。
(23)荷役料金の収受ができていない品目は、「廃棄物」、「鉱石・砂利・砂・石材等の鉱産品」など。

６．荷役、付帯作業の発生状況【８ページ】
(24)荷役作業の発生割合は、発荷主で 40.8%、着荷主で 59.2%。
(25)荷役作業の平均時間は、発荷主で 51 分、着荷主で 42 分。
(26)その他付帯作業は、「検品」、「保管場所までの横持ち運搬」、「商品仕分け」が多く、割合の高い品目は、付帯作業により差異がみられる。

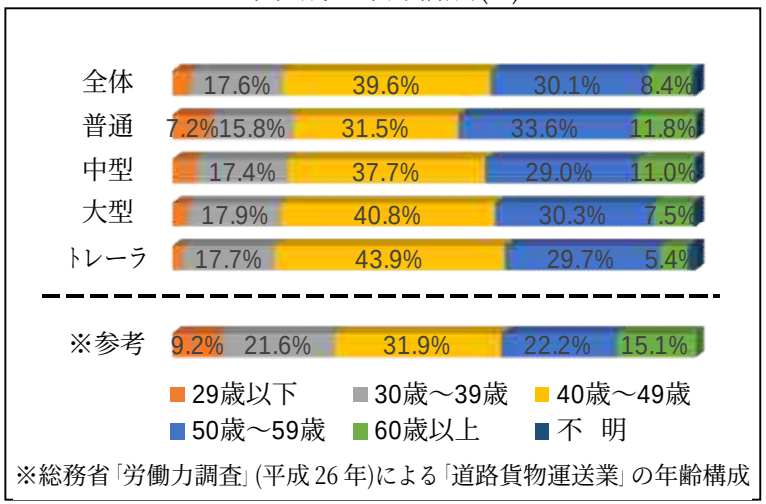
７．事業者調査結果【９ページ】
(27)ドライバーの拘束時間、労働時間、運転時間等全ての時間について、「泊付き輸送」の方が長い傾向にある。
(28)ドライバーは全体の７割弱で不足しており、保有車両台数が多い事業者ほど不足感が強い。
(29)不足している場合の対応としては、「下請・傭車で対応」が最も多いが、「対応できず輸送を断っている」ケースも半数近くの事業者で生じている。

1．回答ドライバーの概要

乗務車両の車種別構成(1)

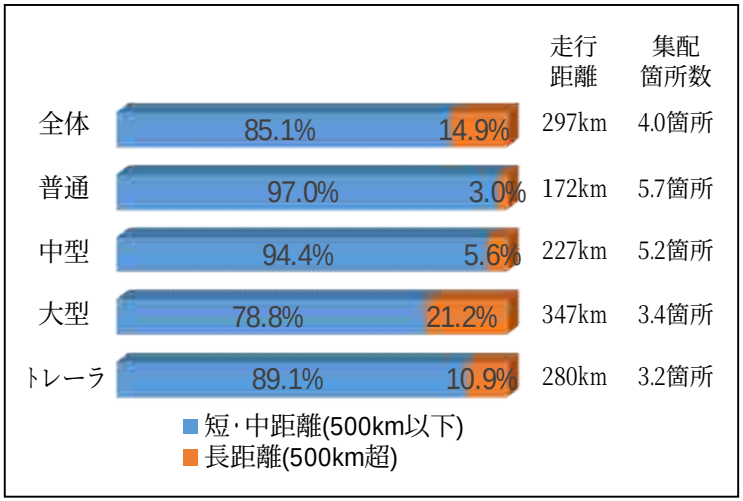


車種別の年齢構成(2)



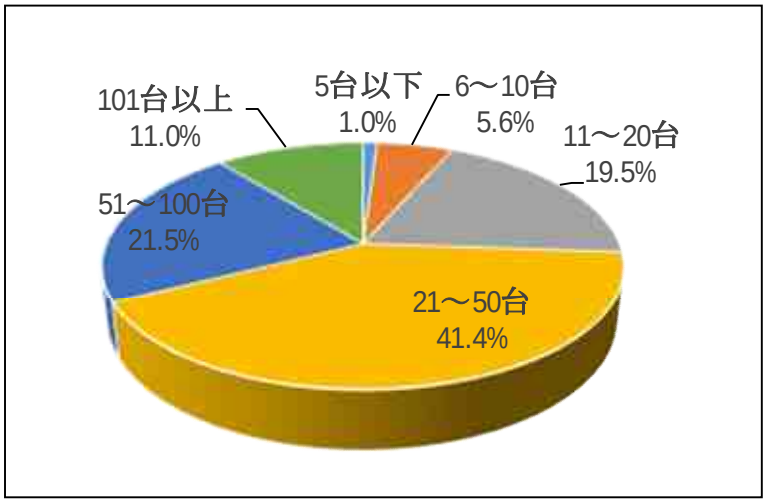
※総務省「労働力調査」(平成 26 年)による「道路貨物運送業」の年齢構成

1運行における走行距離等(3)

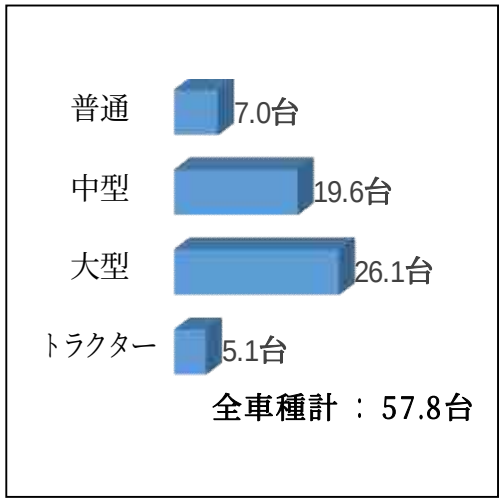


2．回答事業者の概要

保有車両台数別の事業者数分布(4)



平均保有車両台数(4)

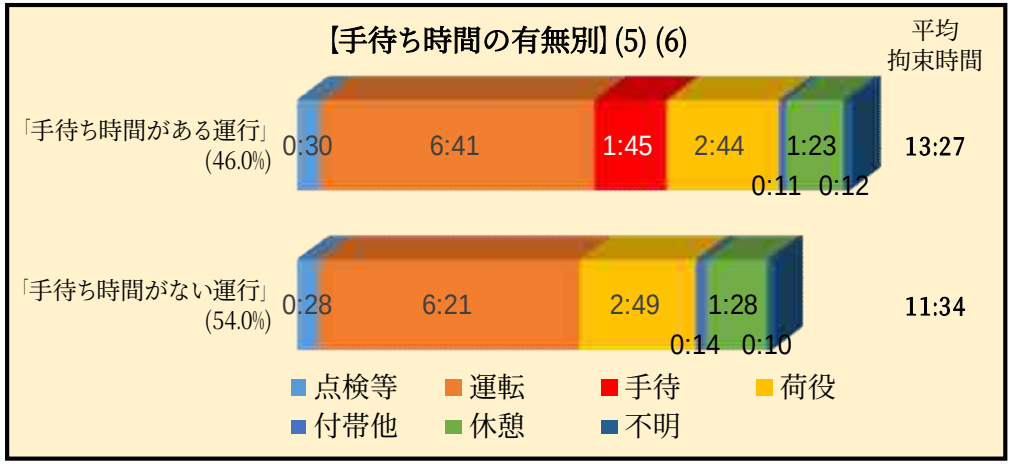


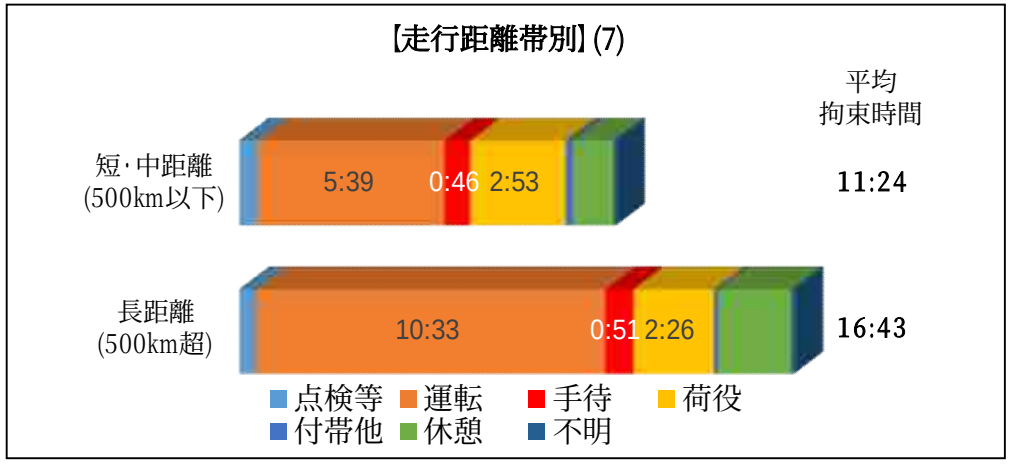
地域別の有効回答事業者数

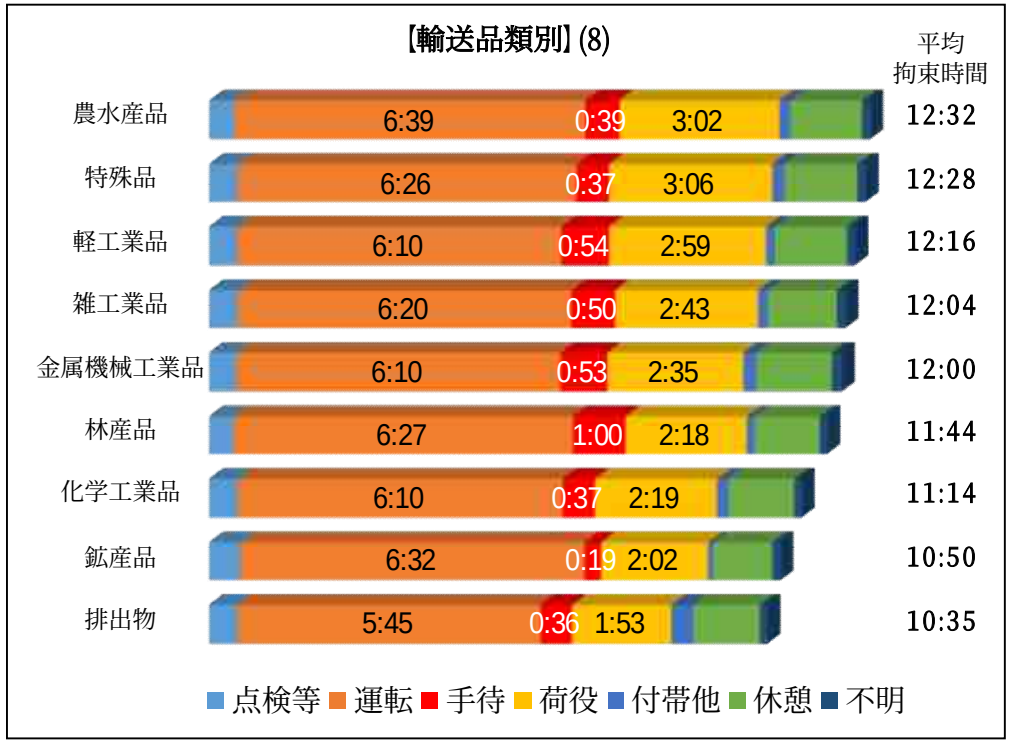
地　域	事業者数
北海道	43社
東　北	139社
関　東	208社
北陸信越	86社
中　部	129社
近　畿	184社
中　国	137社
四　国	104社
九　州	199社
沖　縄	23社
全　国	1,252社

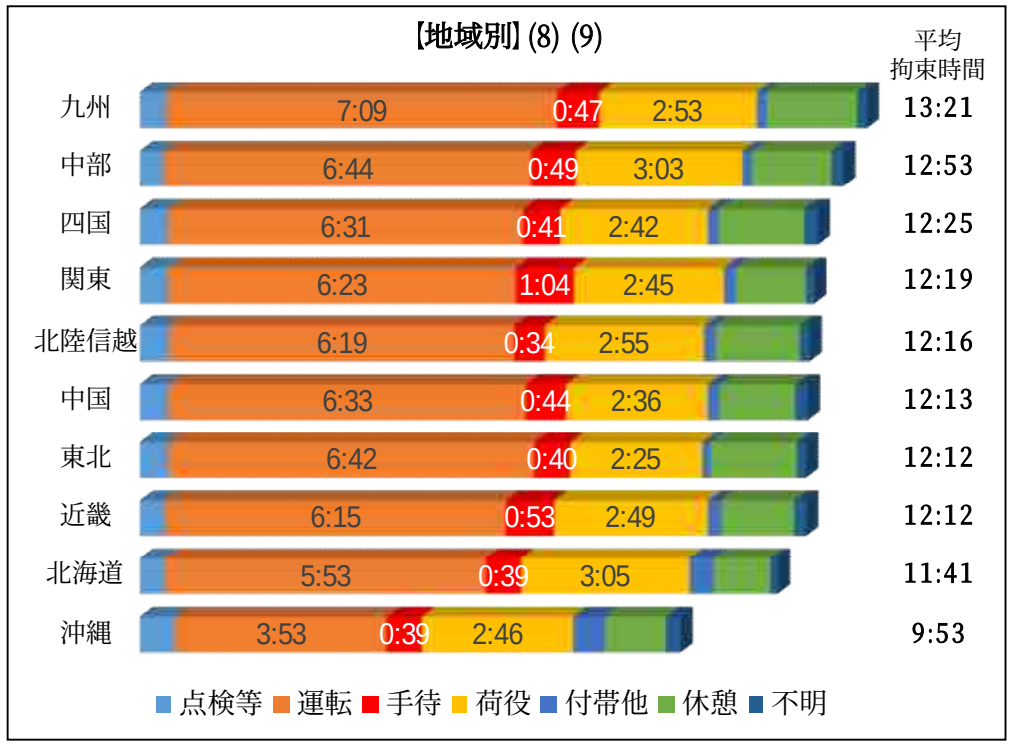
3．ドライバーの拘束時間の概要

1運行当りの拘束時間とその内訳



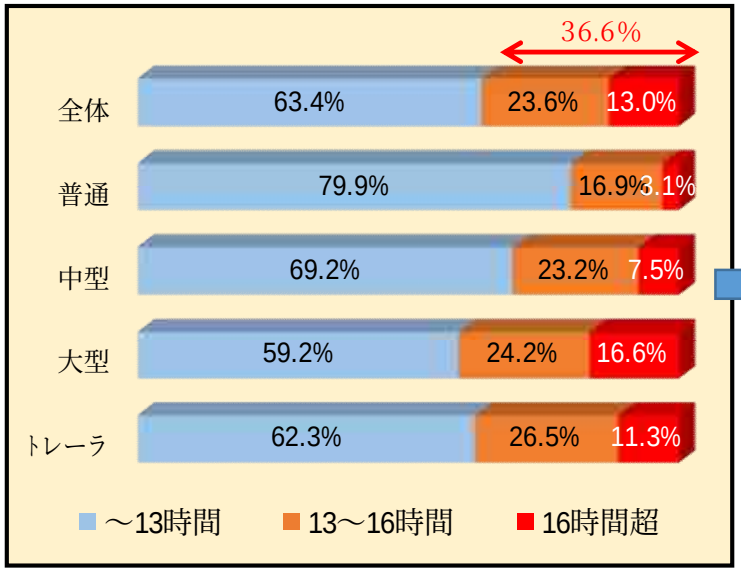




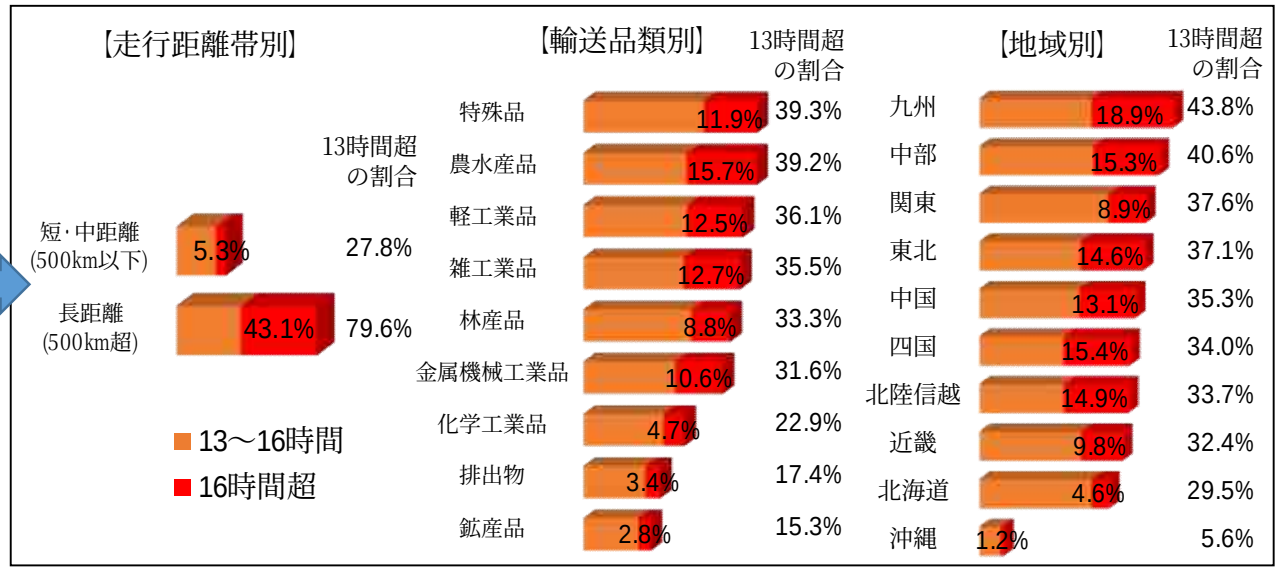


4．ドライバーの拘束時間等の分析①

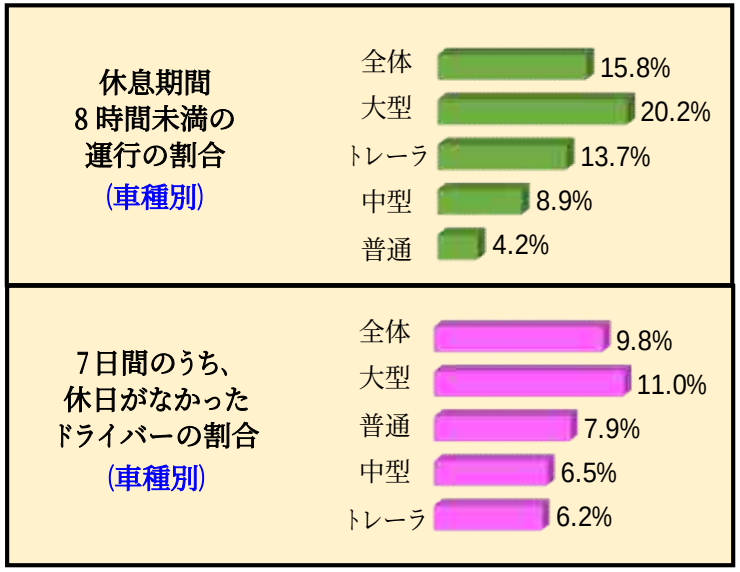
1運行の拘束時間(10)(11)



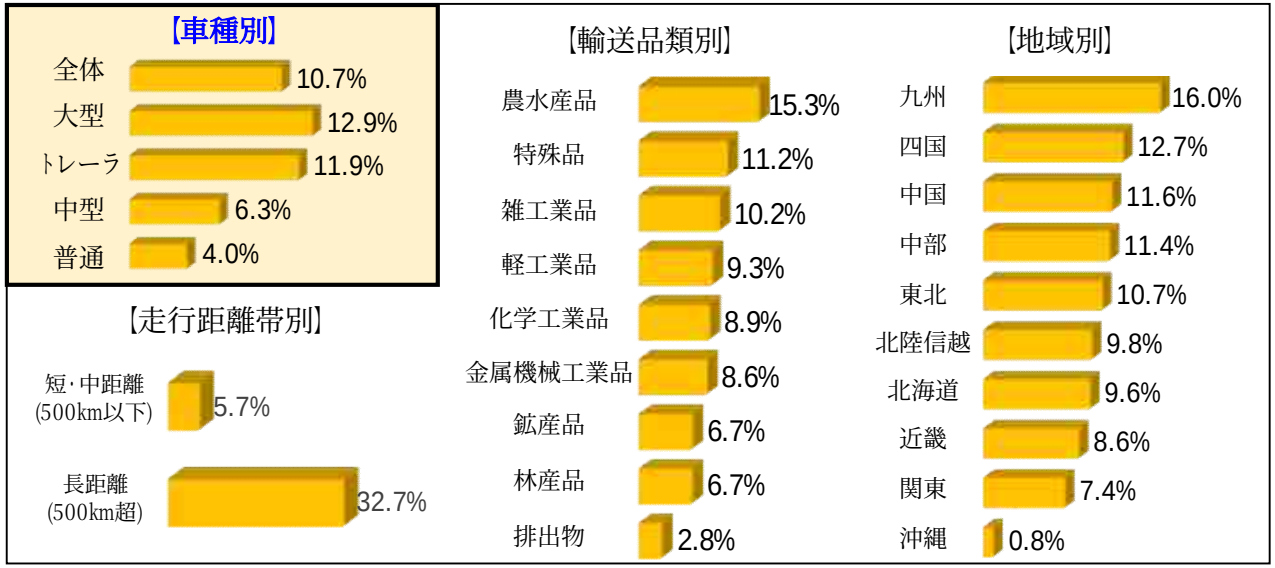
拘束時間 13 時間超、16 時間超の割合(11)



休息期間、休日の取得状況(12)(13)

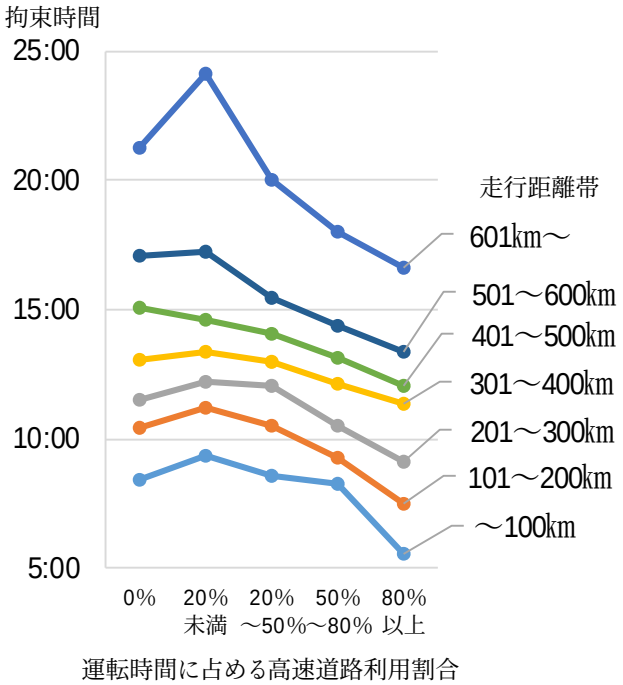


連続運転時間 4 時間超の運行の割合(14)

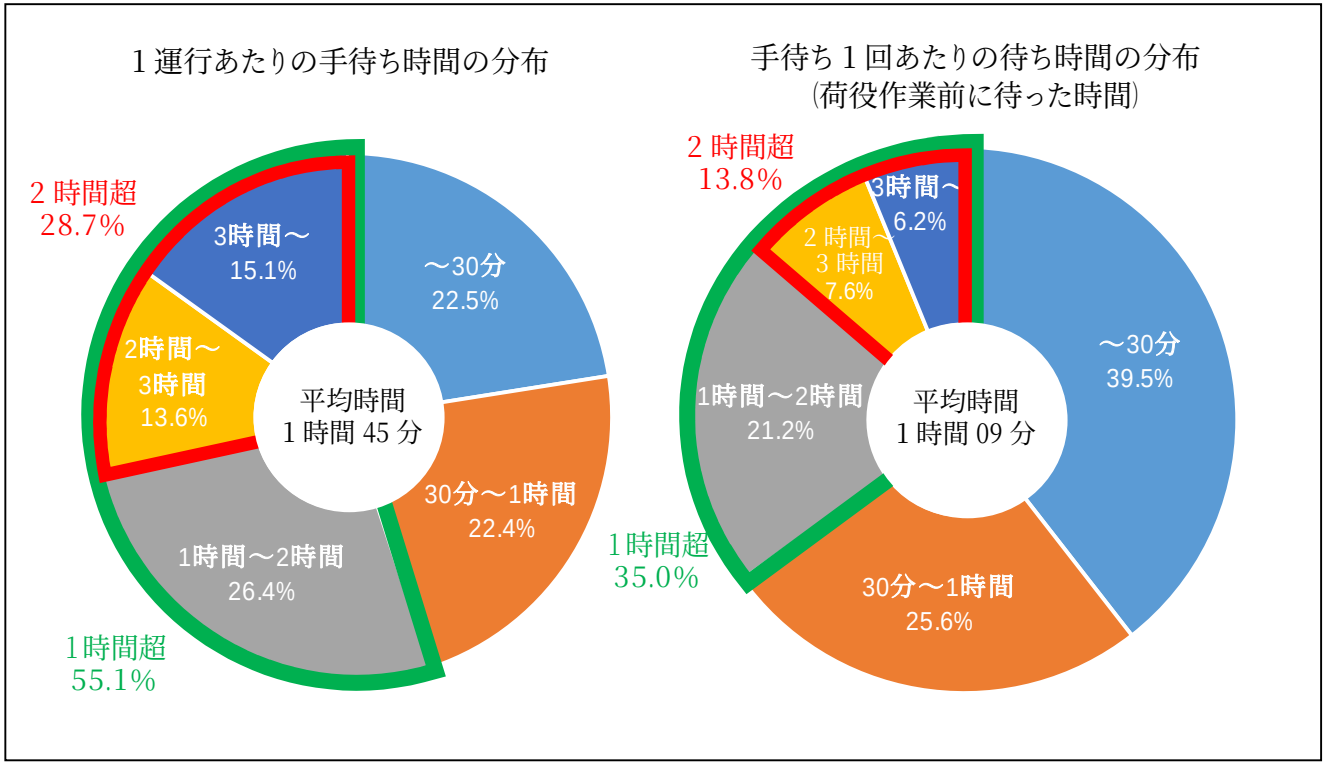


4．ドライバーの拘束時間等の分析②

高速道路の利用割合と拘束時間の関係(15)



手待ち時間の発生状況(16)(17)



荷主都合による手待ち時間の発生状況(18)(19)

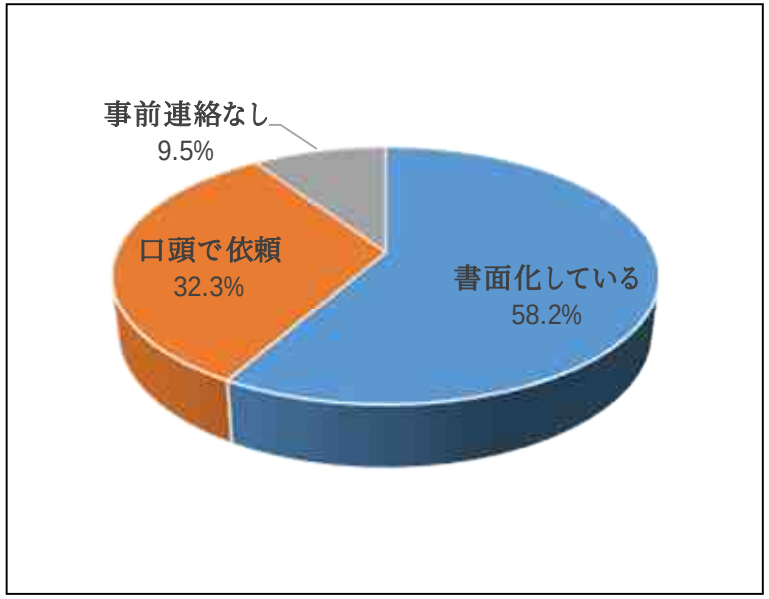
荷主都合による手待ち時間の長い上位5品目（延べ発生回数：13,011回）	発生回数	平均時間
原木･材木等の林産品	365回	1:28
完成自動車･オートバイ	66回	1:24
日用品	528回	1:23
壁紙･タイルなど住宅用資材	248回	1:22
鋼材･建材などの建築･建設用金属製品	1,122回	1:16

発着荷主別（延べ発生回数：13,101回）		平均時間
発荷主	(48.5%)	1:11
着荷主	(51.5%)	1:03

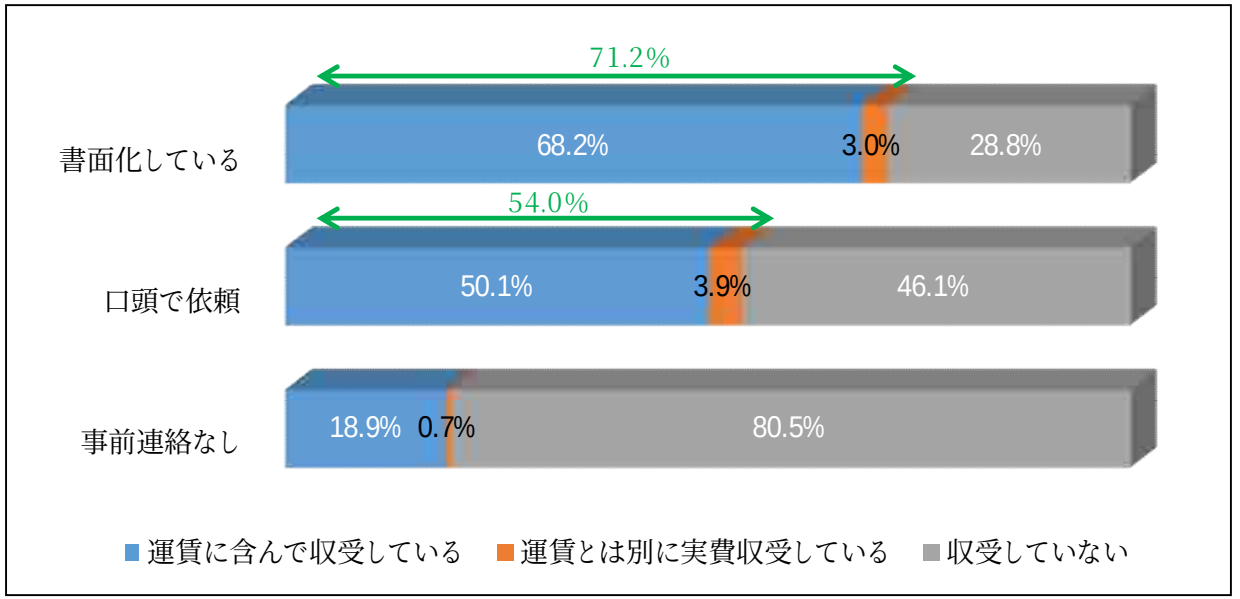
時間指定の有無別（延べ発生回数：13,295回）		平均時間
時間指定あり	(45.2%)	1:07
午前・午後の指定あり	(16.7%)	1:06
時間指定なし	(38.1%)	1:07

5．荷役の書面化、荷役料金収受の状況

荷役に関する書面化の有無の状況(20)



荷役に対する書面化の有無と荷役料金の収受の有無の関係(21)(22)



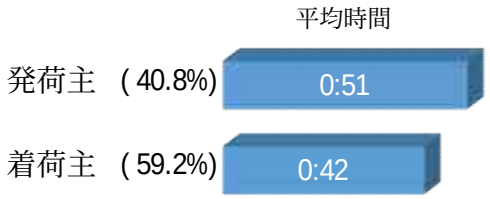
荷役料金の収受の有無と各項目の上位5品目(23)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
運賃に含んで収受している	完成自動車･オートバイ	機械ユニット･半製品	ガソリン･軽油など 石油石炭製品	書籍･印刷物	加工食品
運賃とは別に実費収受している	医薬品	鋼材･建材などの 建築･建設用金属製品	書籍･印刷物	宅配便･特積み貨物	紙･パルプ
収受していない	廃棄物	鉱石･砂利･砂･石材等 の鉱産品	糸･反物などの繊維素材	壁紙･タイルなど 住宅用資材	家電･民生用機械

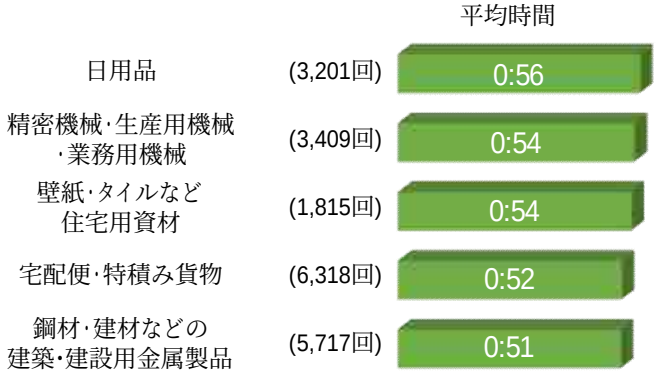
6．荷役、付帯作業の発生状況

荷役時間の発生状況(24)(25)

【発着荷主別】

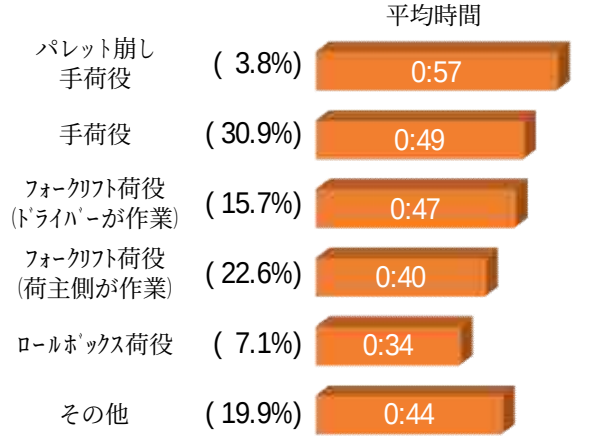


【品目別】(荷役時間の長い上位5品目)



【荷役の方法別】

(単位:時分)



※「発着荷主」と「荷役の方法」の右側カッコ数字は構成比、「品目」の右側カッコ数字は荷役回数を表す。

その他の付帯作業の内容と発生している割合の高い上位5品目(26)

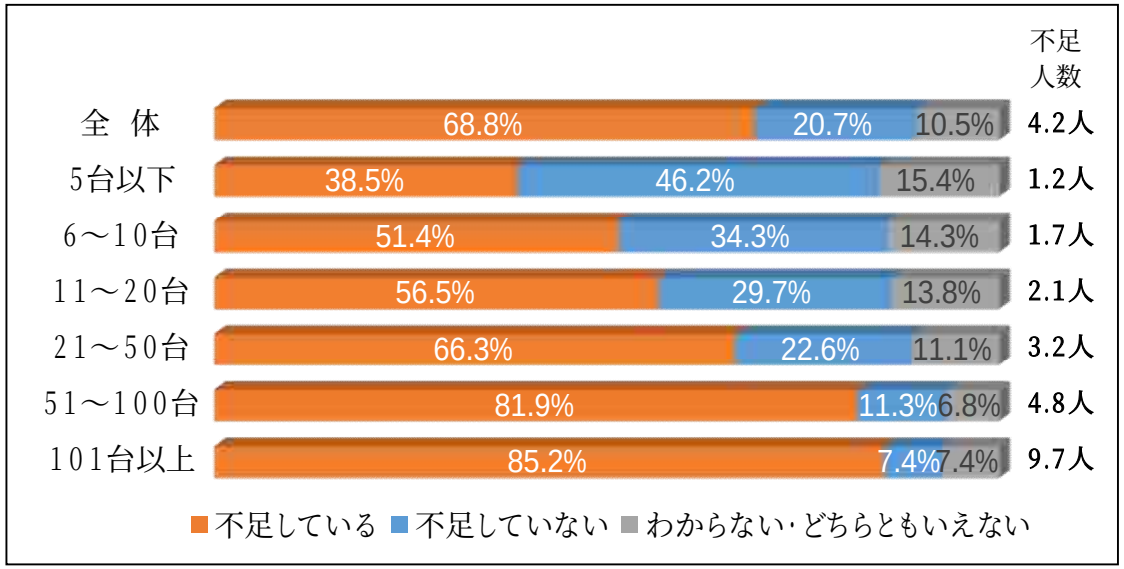
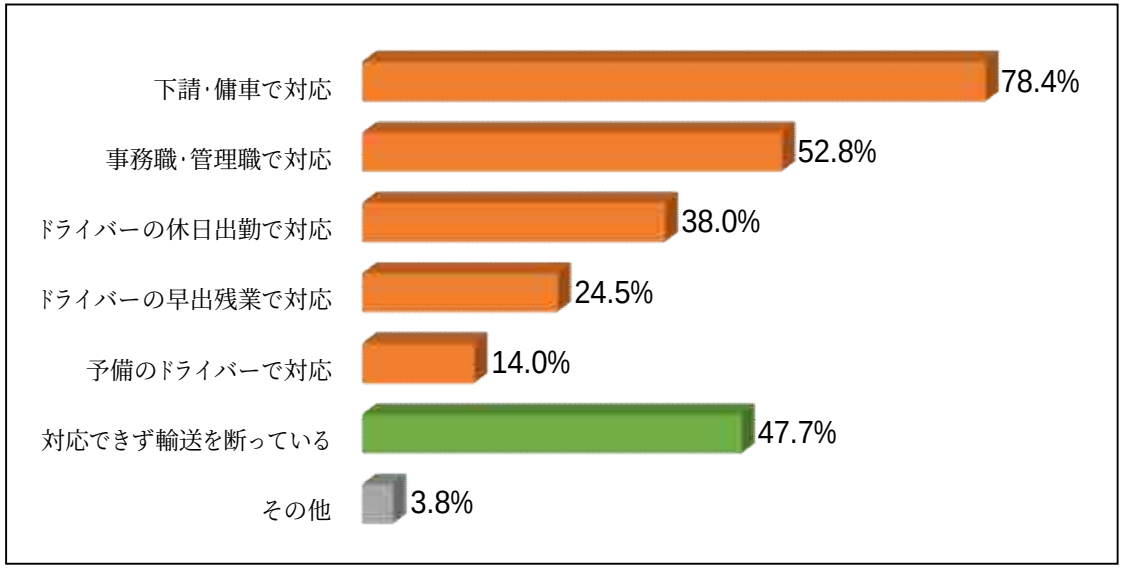
付帯作業を伴う荷役作業回数(27,132回)	件数	回答比率	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
検品	14,400件	53.1%	加工食品	完成自動車･オートバイ	飲料･酒	生鮮食品	壁紙･タイルなど住宅用資材
保管場所までの横持ち運搬	10,707件	39.5%	衣服･布団などの繊維製品	加工食品	金属部品･金属加工品(半製品)	プラスチック性部品･加工品、ゴム性部品･加工品	機械ユニット･半製品
商品仕分け	7,334件	27.0%	機械ユニット･半製品	加工食品	医薬品	飲料･酒	壁紙･タイルなど住宅用資材
資材、廃材等の回収	4,125件	15.2%	飲料･酒	機械ユニット･半製品	衣服･布団などの繊維製品	加工食品	空容器･返回送資材
納品場所の整理	2,844件	10.5%	機械ユニット･半製品	飲料･酒	日用品	衣服･布団などの繊維製品	鉄鋼厚板･金属薄板･地金等金属素材
棚入れ	2,426件	8.9%	衣服･布団などの繊維製品	米･麦･穀物	飲料･酒	機械ユニット･半製品	加工食品
ラベル貼り	1,054件	3.9%	鉄鋼厚板･金属薄板･地金等金属素材	衣服･布団などの繊維製品	合成樹脂･塗料など化学性原料	飲料･酒	加工食品
その他	581件	2.1%	廃棄物	鉄鋼厚板･金属薄板･地金等金属素材	再生資源･スクラップ	鉱石･砂利･砂･石材等の鉱産品	生鮮食品

7．事業者調査結果

労働時間の実態（平成 27 年 7 月）(27)

労働時間の項目 （カッコ内は改善基準告示の概要）	平均時間		
	泊付きの輸送を担当	日帰り輸送を担当	泊付き及び日帰りの両方を担当
1か月の拘束時間 （293時間以内）	273.1時間	238.6時間	261.1時間
1日の拘束時間 （原則13時間以内、最長16時間）	12.7時間	10.6時間	12.2時間
1日の運転時間 （2日平均で1日当たり9時間以内）	8.1時間	5.8時間	7.3時間
1週間の運転時間 (2週平均で1週間当たり44時間以内)	41.5時間	31.8時間	37.3時間
連続運転時間 （4時間以内）	3.7時間	2.5時間	3.3時間
1日の手待ち時間	2.0時間	1.7時間	2.1時間
1か月の総労働時間	252.3時間	214.3時間	233.6時間
1か月の時間外労働時間	60.4時間	45.5時間	54.0時間
休息期間 （継続8時間以上）	8.9時間	8.1時間	8.9時間

ドライバーの不足状況(28)



ドライバーが不足している場合の対応(29)